

# 夢二からちひろへ

—子どもの本の先駆者たち—

展示会期

2014年11月6日(木)～2015年1月31日(土)

主催：ちひろ美術館 協力：婦人之友社、静岡市美術館、藤原浄峰  
 後援：絵本学会、こどもの本WAVE、(公社)全国学校図書館協議会、(一社)日本国際児童  
 図書評議会、日本児童図書出版協会、(公社)日本図書館協会、杉並区教育委員会、中野区、  
 西東京市教育委員会、練馬区



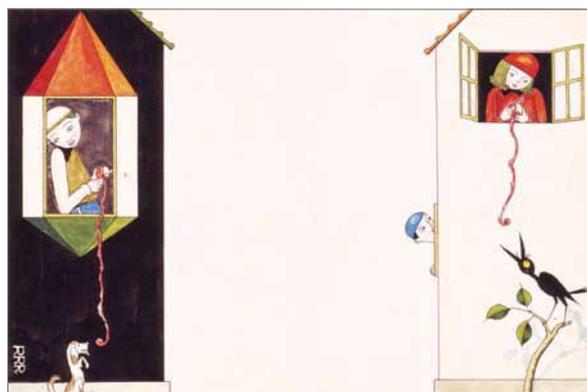
1 竹久夢二 花の園 「子供之友」より 1915年 \*婦人之友社蔵(後期に出品)



2 岡本帰一 サンリンシャ 「コドモノクニ」より 1926年  
 \*ちひろ美術館蔵



3 初山滋 日本けんぶつ 「コドモノクニ」より 1935年頃 \*個人蔵



4 武井武雄 りんごの皮むき 「子供之友」より 1927年 \*婦人之友社蔵  
 (後期に出品)



5 いわさきちひろ パラ飾りの帽子の少女 「子どものしあわせ」より 1971年  
 \*ちひろ美術館蔵

大正モダニズムの時代、子どものための教育や本への関心が高まり、新たな文化が花開きました。芸術性の高い子ども向けの雑誌も次々に創刊され、童話、童謡に次いで「童画」ということばも生まれます。そのころに幼少期を過ごしたいわさきちひろは、絵雑誌「コドモノクニ」で当時の童画家たちの絵にふれて育ち、生涯の心の糧としました。

本展では、いわさきちひろの作品と共に、日本の子どもの本に先駆的な役割を果たした画家たち—竹久夢二、岡本帰一、清水良雄、武井武雄、初山滋、深沢省三、村山知義、茂田井武一—の作品を展示します。激動の大正から昭和の時代に、子どもたちに夢を与えようと自らの芸術を子どもの本にかけた画家たちの、今見てもなお清新な世界をご覧ください。

戦いがおわった日、心のどこかがぬくぬく燃え、生きていく喜びがあふれだした。忘れていた幼い日の絵本の絵を思いだし、こどものころのように好みに絵を描きだした。いつのまにか童画家といわれ、日本童画会に入った。武井武雄先生、初山滋先生方とはじめてお目にかかった日、あふれる感動で胸がいっぱいになった。ああこの先生方の絵で私は大きくなったのだ。私の心のなかには、幼い日見た絵本の絵がまだ生きつづけている。

いわさきちひろ 1968年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

TEL.03-3995-0772 (業務用)  
 お問い合わせは、広報担当：原島・松本まで



6 清水良雄 お馬の飾り「赤い鳥」より 1918年 \*ちひろ美術館蔵



7 村山知義 こぐまさんの家族「子供之友」より 1927年 \*婦人友社蔵 (前期に出品)



8 深沢省三 鳩「赤い鳥」より 1935年 \*ちひろ美術館蔵

## 本展の見どころ

### ①大正モダニズムの時代に子どもの本の世界で活躍した童画家7名の貴重な原画が一堂に!

大正モダニズムの時代に花開いた童画の文化。しかし日本が戦争へ突き進むなかで多くの作品は失われ、現存する作品は希少です。「子供之友」「赤い鳥」「コドモノクニ」などに掲載された、竹久夢二や岡本帰一、武井武雄などの貴重な原画や資料が集結します。

### ②いわさきちひろはこの諸先輩の絵を見て育ちました。

「コドモノクニ」で岡本帰一や初山滋、武井武雄の作品を見て憧れたというちひろの絵には、子どもの文化を大切に考えた先輩たちの思いが引き継がれています。

### ③終戦後に活躍した茂田井武の原画も展示されます。

戦後の復興とともに次々に刊行された子どもの本で活躍し、子どもたちにあたたかな夢を贈った茂田井武の原画も展示します。

### ④いわさきちひろの初期から晩年までの作品も紹介。

ちひろの画業は、戦後の日本の子どもの本の復興の歩みと重なります。絵雑誌や童話集の仕事から、晩年の絵本『ゆきのひのたんじょうび』まで、ちひろの画業を年代を追って紹介します。



9 茂田井武 とりよせのおじいさん「キンダーブック」より 1956年 \*ちひろ美術館蔵

## 出品作品数

○子どもの本の先駆者たち 約65点

\*前期(11月6日~12月21日)、後期(12月23日~2015年1月31日)で一部作品の入れ替えあり

○いわさきちひろ (ピエゾグラフ含み) 約80点

## 出品画家紹介(9名)

### 竹久夢二 Takehisa Yumeji (1884-1934)

岡山県に生まれる。早稲田実業学校専攻科在学中から雑誌へ投稿、明治38年末にデビューし、コマ絵や挿し絵を数多く発表。明治末から大正期にかけて夢二式と呼ばれる美人画を確立した。一方子どものための仕事も多く手がけ、童画の成立に大きな影響を与えた。詩や童謡も数多く創作したほか、装丁や千代紙などのデザインも手がけたグラフィックデザイナーの先駆者でもあった。

### 岡本帰一 Okamoto Kiichi (1888-1930)

兵庫県淡路島に生まれる。東京第一中学校卒業後、黒田清輝に師事し白馬会研究所で洋画を学ぶ。1912年、岸田劉生、高村光太郎とフェウザン会結成。「金の船」の表紙で人気を博し、絵雑誌「コドモノクニ」創刊時の絵画主任も務めた。1927年、日本童画家協会結成に参加。当時の最新流行を取り入れた西欧風の家庭や子どもたちのようすは子どもたちの憧れであった。

### 清水良雄 Shimizu Yoshio (1891-1954)

東京に生まれる。東京美術学校西洋画科卒業。1913年に文展に初入選。1927年より帝展審査員。童画家としては1918年創刊の「赤い鳥」の主任画家を務め、同紙の表紙、口絵、挿し絵で活躍。「キンダーブック」「銀の鈴」の表紙・挿し絵も手がける。1927年、日本童画家協会結成に参加。

### 武井武雄 Takei Takeo (1894-1983)

長野県に生まれる。東京美術学校西洋画科研究科を修了後、1924年、日本で初めて「童画」ということばを用いて個展を開く。1922年「コドモノクニ」の創刊に関わり、以後、同誌を中心に多くの絵雑誌で、空想力と機智に富んだ独創的な画風を展開した。1927年日本童画家協会、1946年日本童画家会結成に参加。戦後も長く童画家として活躍した。

### 初山滋 Hatsuyama Shigeru (1897-1973)

東京に生まれる。小学校卒業後、金属商、模様画工房に奉公に入り、後に日本画家の井川洗匠に学ぶ。1919年創刊の童話雑誌「おとぎの世界」の表紙を描いて注目を集め、以後、絵雑誌「コドモノクニ」など、子どもの本の仕事を数多く手がけた。1927年日本童画家協会、1946年日本童画家会結成に参加。戦後も長く童画家として活躍した。

### 深沢省三 Fukazawa Shozo (1899-1992)

岩手県に生まれる。東京美術学校で西洋画家藤島武二に師事。在学中の1919年から清水良雄の紹介で雑誌「赤い鳥」に挿し絵を描き始め、17年間にわたり同誌に関わる。1920年帝展で「九月」が初入選。さらに「コドモノクニ」や「子供之友」にも多くの童画を描いた。1927年に日本童画家協会結成に参加。

### 村山知義 Murayama Tomoyoshi (1901-1977)

東京に生まれる。第一高等学校在学中、羽仁もと子のすすめで「子供之友」に童画を発表。その後東京大学哲学科を中退し、ドイツに渡る。表現主義、構成主義の美術、演劇に傾倒し、1923年帰国後、美術団体「MAVO」を結成。一方で子どもの雑誌に童画や童話を発表し、1927年日本童画家協会結成に参加。新劇界で劇作、演出を手がけるかわら、戦後も童画を描き続けた。

### 茂田井武 Motai Takeshi (1908-1956)

東京に生まれる。日本橋の旅館であった生家が震災で全焼。中学卒業後、太平洋画会研究所、川端画学校などで絵を学び、アテネ・フランスに通う。1930年シベリア鉄道でパリへ入り、1933年に帰国。職を転々とした後、雑誌「新青年」などに挿し絵を描く。1947年、日本童画家会入会。戦後日本の復興期に絵本、絵雑誌の仕事で活躍。1954年小学館児童出版文化賞受賞。

### いわさきちひろ Iwasaki Chihiro (1918-1974)

福井県に生まれ、東京で育つ。東京府立第六高等女学校卒業。藤原行成流の書を学び、絵は岡田三郎助、中谷泰、丸木俊に師事。1949年、紙芝居『お母さんの話』を出版、翌年文部大臣賞受賞。1956年小学館児童文化賞、1961年産経児童出版文化賞、1973年『こどりのくるひ』でポロニヤ国際児童図書展グラフィック賞等を受賞。子どもを生涯のテーマとして描いた。

\* 詳細は、ちひろ美術館ホームページでご案内します。イベント参加費の他、別途入館料が必要です。(高校生以下は入館料無料)

## 夢二からちひろへ 関連イベント

## ●ドレスコード特典

人気の高いちひろ作品のひとつ「ぶどうを持つ少女」が11年ぶりに東京館に展示されます。これにちなみ、会期中、紫色のものを着用されたお客様に、次回ご利用いただける招待券(東京・安曇野共通)をプレゼントします(お一人様1回限り)。



10 いわさきちひろ ぶどうを持つ少女 1973年

## ●スライドトーク

## 「夢二からちひろへ」

11/23 (日) 15:00~16:00

講師：竹迫祐子  
(安曇野ちひろ美術館副館長)

定員：50名  
参加費：無料

\* 要申し込み 10/23 (木) 受付開始

## ●わらべうたあそび

声を出して歌ったり、体を動かしたりしながら、親子で楽しく参加できます。

11/15 (土) 11:00~11:40

講師：服部雅子  
(西東京市もぐらの会代表、はとさん文庫主宰)

対象：0~2歳までの乳幼児と保護者  
定員：15組30名  
参加費：無料

\* 要申し込み 10/15 (水) 受付開始

## ●平日ペア特典

会期中の平日、ペアでお越しのお客様は、通常1600円(シニア割引の場合1400円)のところ、1300円でご入館いただけます。詳細は当館公式サイト、イベントページをご参照のうえ、割引特典のページをプリントアウトして持参するか、該当ページの画面を受付にてご提示ください。

## ●成人の日特典

成人の日(1月12日)にちなんで、1月10日(土)から1月18日(日)までのあいだ、新成人※の方は無料でご入館いただけます。

\* 1994(平成6年)4月2日から1995(平成7年)4月1日生まれの方。入館時に生年を確認できる証明書をご提示ください。

## ●おもちゃのひろば

2015. 1/18 (日) 10:30~12:00

定員：10組20名 参加費：無料  
対象：3歳以上の未就学児とその保護者

協力：おもちゃの広場 石神井支部

\* 要申し込み 12/18 (木) 受付開始

●没後40年記念 酒井京子講演会  
「いわさきちひろと紙芝居」

ちひろの『花の童話集』などを手がけた童心社の編集者であり、また日本独自の文化である紙芝居文化を国内外に発信する酒井京子が、ちひろの仕事や、紙芝居の魅力を語ります。紙芝居の上演もします。

12/6 (土) 15:00~16:30

講師：酒井京子 (株式会社童心社取締役会長  
・公益財団法人いわさきちひろ記念事業団監事)

定員：60名 参加費：500円

\* 要申し込み 11/6 (木) 受付開始



『お母さんの話』1947年

●新春・ちひろの水彩技法ワークショップ  
手づくりぼち袋

ちひろ美術館・東京はお正月2日から開館し、人気の水彩技法体験ワークショップを開催。水彩のにじみを使って、オリジナルのぼち袋をつくります。

2015. 1/2 (金)・1/3 (土) 11:00~

対象：5歳~大人 定員：先着70名 参加費：200円

\* 当日申し込み 受付開始 10:00~ (最終受付 15:00)

●ファミリー  
ギャラリートーク

ちひろの絵を対話しながら鑑賞します。ご家族でご参加ください。

11/22 (土) 14:00~ \* 参加自由、無料

## ●松本猛ギャラリートーク

母・ちひろとの思い出や展示のみどころなどをお話します。

2015. 1/18 (日) 14:00~ \* 参加自由、無料

講師：松本猛 (絵本学会会長・ちひろ美術館常任顧問)

## ●無料感謝デー 12/14 (日)

いわさきちひろの誕生日(1918年12月15日生まれ・生誕96年)を記念し、お客さまへの感謝の気持ちを込めた、どなたでも無料でご入館になれる感謝デー。さまざまなお楽しみプレゼントや、この日限定の特別企画も。

●ガーデントーク  
ちひろの庭の花めぐり

「ちひろの庭」や展示室で、ちひろが愛した草花などのエピソードを紹介します。

11/23 (日) 14:00~14:30

\* 参加自由、無料

## ●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日 14:00~ \* 参加自由、無料

## ●えほんのじかん

協力：NCNB (ねりま子どもと本ネットワーク)

毎月第2・4土曜日 11:00~

\* 参加自由、無料

<次回展示予告> 2015年3月1日(日)~5月24日(日)

『絵本 窓ぎわのトットちゃん』展

<企画展> 聖コージズキンの誘惑展

● 展示会期…2014年11月6日(木)~2015年1月31日(土)

● 開館時間…10:00~17:00(入館は閉館の30分前まで)

● 休館日…月曜日(祝休日は開館、翌平日休館) ○年末年始(12/28~1/1まで休館、1/2から開館) ○2月は冬期休館

● 入館料…大人800円/高校生以下無料

団体(有料入館者20名以上\*)、65歳以上の方、学生証をお持ちの方は100円引/障害者手帳ご提示の方は半額、介添えの方は1名まで無料/視覚障害のある方は無料/年間パスポート2500円

\* ちひろ没後40年の2014年度に限り、有料入館者10名以上から

● 交通…○西武新宿線 上井草駅下車徒歩7分

○JR中央線 荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分

○西武池袋線 石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14) 上井草駅入口下車徒歩5分

○駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団  
ちひろ美術館・東京

<http://www.chihiro.jp/>

お問い合わせは、広報担当：原島・松本まで

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2 テレホンガイド 03-3995-3001 03-3995-0612(代表) FAX 03-3995-0680

